



ID Holdings

株式会社 IDホールディングス
2023年3月期第1四半期 決算説明資料

代表取締役社長 船越 真樹

東証プライム市場
証券コード

4709

当社ウェブサイトへの
アクセスができます。



1**2023年3月期第1四半期決算説明****2****新中期経営計画
Next 50 Episode II
「Ride on Time」**

売上高：72億95百万円 (前期比 +11.1%)



- ⊕ ソフトウェア開発、システム運営管理およびサイバーセキュリティ・コンサルティング・教育が堅調に推移

営業利益：6億30百万円 (前期比 +115.6%)



- ⊕ 利益率の高いDX関連ビジネスの拡大
- ⊕ 増収にともなう増益
- ⊖ グループ組織変更にともなう売上原価の増加

連結損益状況(前年同期比)

(単位：百万円)	2021.6		2022.6		増減比	
	実績	構成比	実績	構成比	増減額	増減率
売上高	6,565	-	7,295	-	730	+11.1%
売上原価	5,055	77.0%	5,606	76.9%	551	+10.9%
売上総利益	1,509	23.0%	1,688	23.1%	178	+11.8%
販管費	1,217	18.5%	1,058	14.5%	-159	-13.1%
EBITDA ^{※1}	442	6.7%	779	10.7%	337	+76.3%
営業利益	292	4.5%	630	8.6%	337	+115.6%
経常利益	318	4.8%	668	9.2%	349	+109.9%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	142	2.2%	372	5.1%	230	+160.9%
1株当たり四半期純利益(EPS)(円) ^{※2}	8.33	-	22.48	-	14.15	-
のれん償却前EPS(円) ^{※2、3}	14.81	-	29.18	-	14.37	-

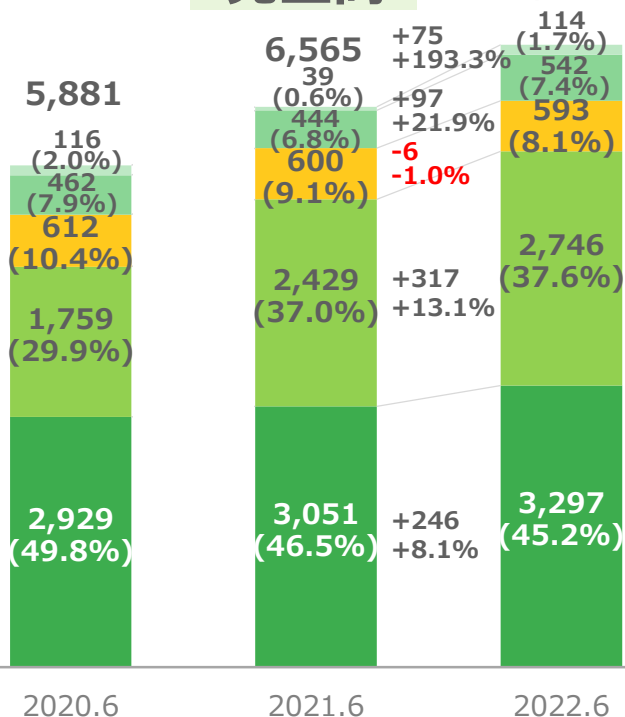
※1 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却額

※2 「EPS」ならびに「のれん償却前EPS」は2021年7月1日を効力発生日として実施した株式分割（1株→1.5株）を考慮した金額を記載しています。

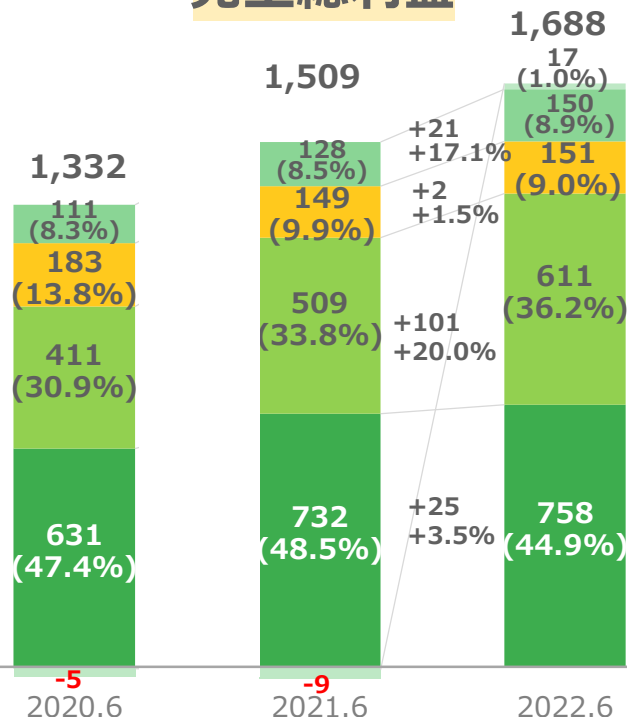
※3 のれん償却前EPS = (親会社株主に帰属する当期（または四半期）純利益 + のれん償却額) / 期中平均株式数

単位：百万円

売上高



売上総利益



■ システム運営管理 ■ ソフトウェア開発 ■ ITインフラ ■ サイバーセキュリティ・コンサルティング・教育 ■ その他

サービス別売上高のポイント

- システム運営管理
 - ⊕ 金融関連顧客における受注拡大や、大手ITベンダーへの営業強化による取引拡大
- ソフトウェア開発
 - ⊕ 大手ITベンダーへの営業強化による取引拡大や、公共関連顧客における受注拡大
 - ⊕ 運輸関連顧客における大型案件の再開
- ITインフラ
 - ⊖ 情報通信、公共関連顧客における案件の収束など
- サイバーセキュリティ・コンサルティング・教育
 - ⊕ サイバーセキュリティにおける製品販売の増加や受注拡大
 - ⊕ コンサルティングにおける売上の増加

※ 2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を適用しています。

©2022 ID Holdings Corporation. All Rights Reserved.

DX 関連ビジネスとは

既存のITサービスに、クラウドやAI、IoTなどの先端技術を組み合わせ、お客様のDXを推進するビジネス

DX関連売上高：3,292 百万円 連結売上高比：約 45.1 %

DX関連売上総利益：829百万（同率：25.2%）

（参考）2022年3月期1QDX売上高：2,607百万円 連結売上高比：約39.7%

DX 関連ビジネス (百万円)



セキュリティ・ITインフラ



24 時間体制でのネットワーク監視、インシデント対応、セキュリティ製品の導入

遠隔支援・高度開発



モバイルアプリ開発の拡大、リモートやノーコードを活用した開発の早期化

クラウド



AWSやAzureなどの大手 IT インフラを活用し、クラウド環境の構築・移行を支援

コンサル・研修

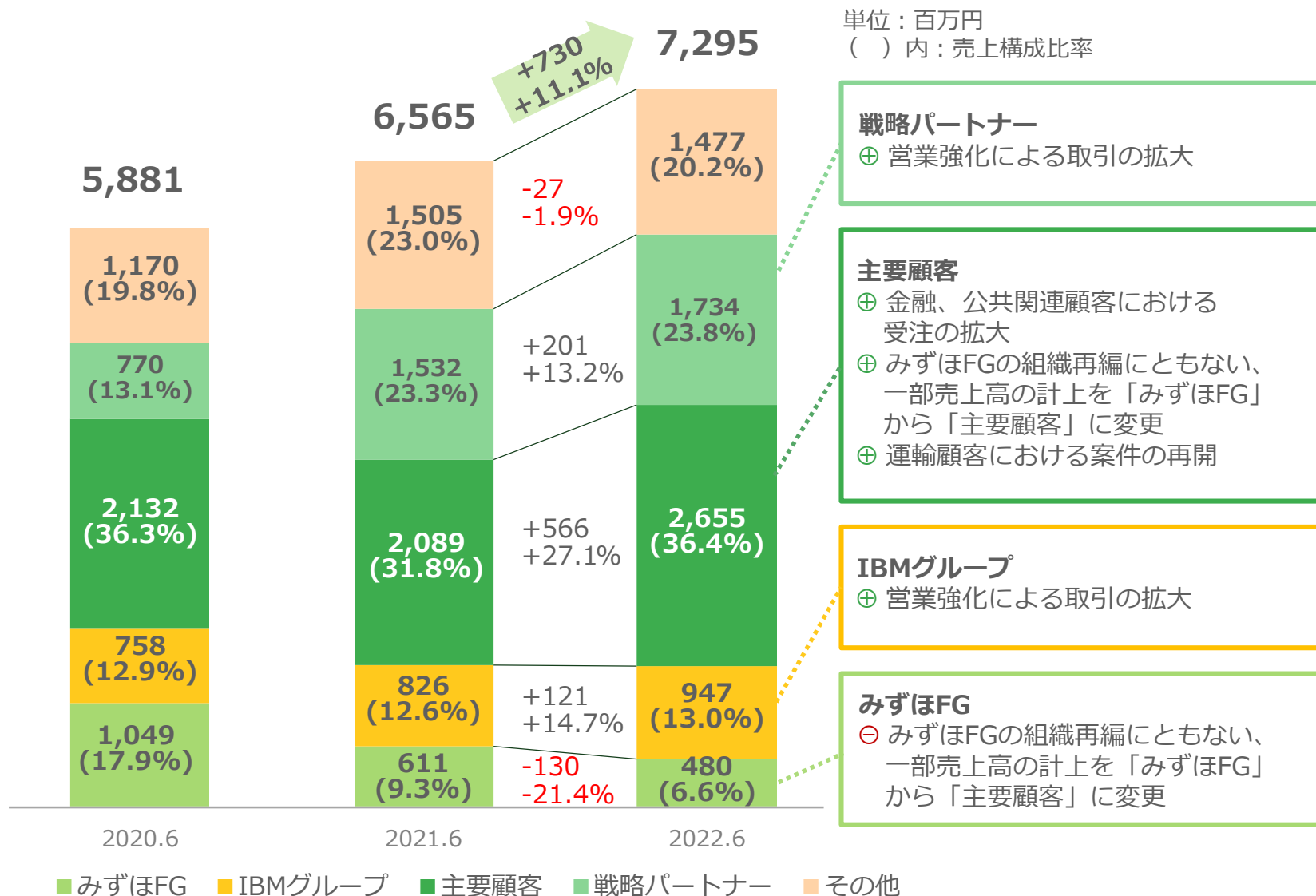


システム運用やセキュリティに関するコンサルティング・研修を実施

自動化・効率化



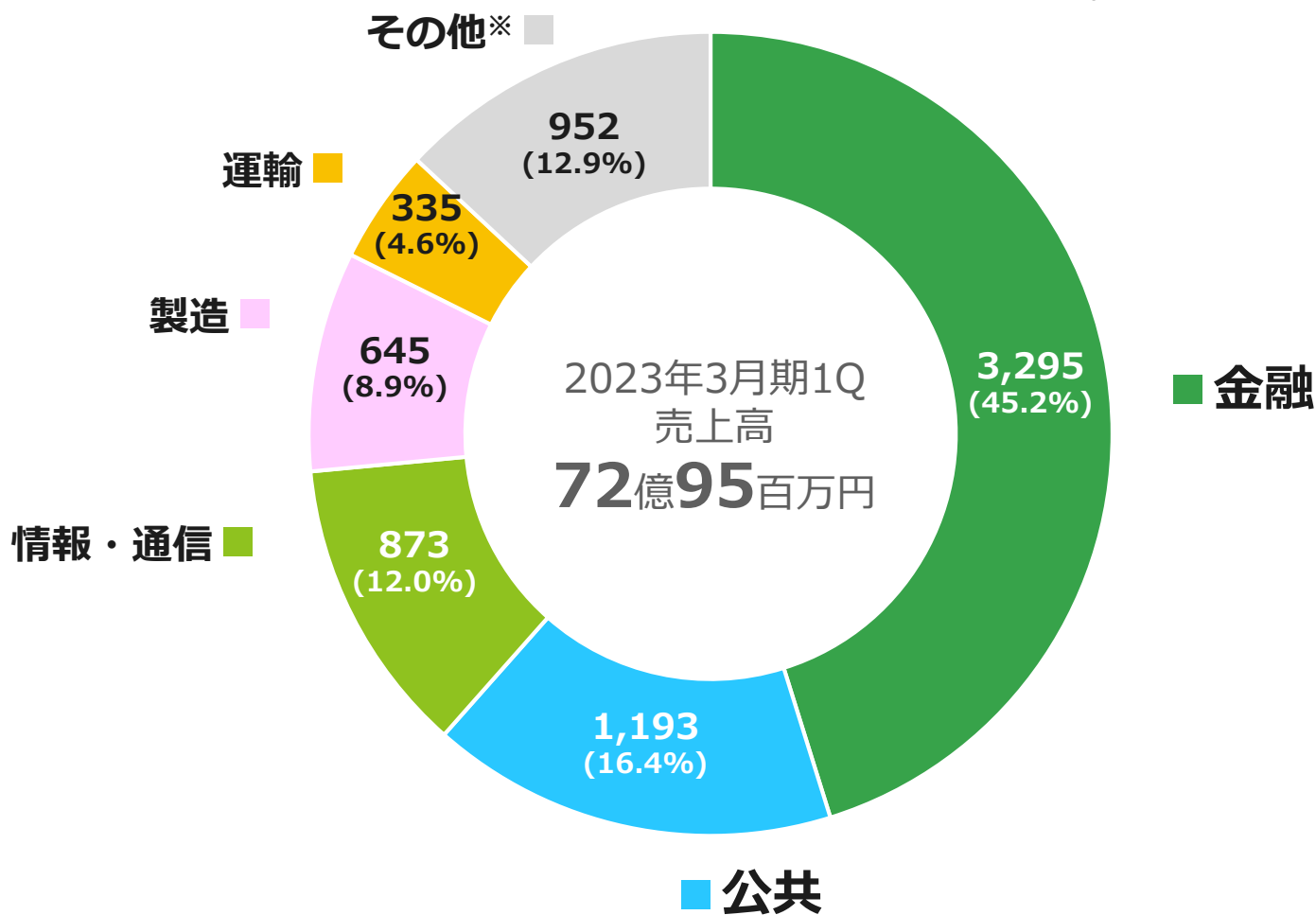
RPAやAI、スマートグラスを活用し、お客様の業務の自動化・効率化を支援



※1 今期より「主要顧客」の内訳を一部変更しています。また2020.6、ならびに2021.6の売上高につきましても、変更後の区分に基づき算出しています。

※2 2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を適用しています。

単位：百万円
 () 内：売上構成比率



Change or Die!

※「メディア」、「ヘルスケア」、「建設・不動産」、「卸売・小売・飲食店」等

	2021.6	2022.6		主な増減要因
	(単位：百万円)	実績	実績	
売上総利益	1,509	1,688	+178	・売上総利益の増減要因 -売上高の増加 +730 -売上原価の増加 +551 ・労務費 +37 ・外注費 +468 ・製造経費 +6 ・仕入 +21
販管費	1,217	1,058	-159	・販管費の増減要因 -人件費の減少 -181 -グループ組織変更にともなう人件費の減少 -販管部門から事業部門への人員の再配置 -前期に子会社で計上した福利厚生費（周年記念）の反動減 など -その他販管費の増加 +22 ・旅費交通費の増加 +18
営業利益	292	630	+337	

(単位：百万円)	2021.6	2022.6		主な増減要因
	実績	実績	増減額	
経常利益	318	668	+349	・経常利益の増減要因 -営業利益の増加 +337 -営業外収益の減少 -5 -営業外費用の減少 -17
特別利益	1	0	-1	・特別利益の減少要因 -前期に計上した固定資産売却益の反動減 -1
特別損失	12	1	-11	・特別損失の減少要因 -前期に計上した子会社の事務所移転費用の反動減 -12 -固定資産除却損の計上 +1
法人税など合計	163	293	+129	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	142	372	+230	

(百万円)

2022.3

資産 16,238	負債 6,792
	純資産 9,446

主な要因

- ・ 未払法人税等の減少 -559
- ・ 賞与引当金の減少 -414
- ・ 流動負債のその他の増加 +550

主な要因

- ・ 現金及び預金の減少 -886
- ・ 売掛金の減少 -521
- ・ 契約資産の増加 +347
- ・ 流動資産のその他の増加 +471

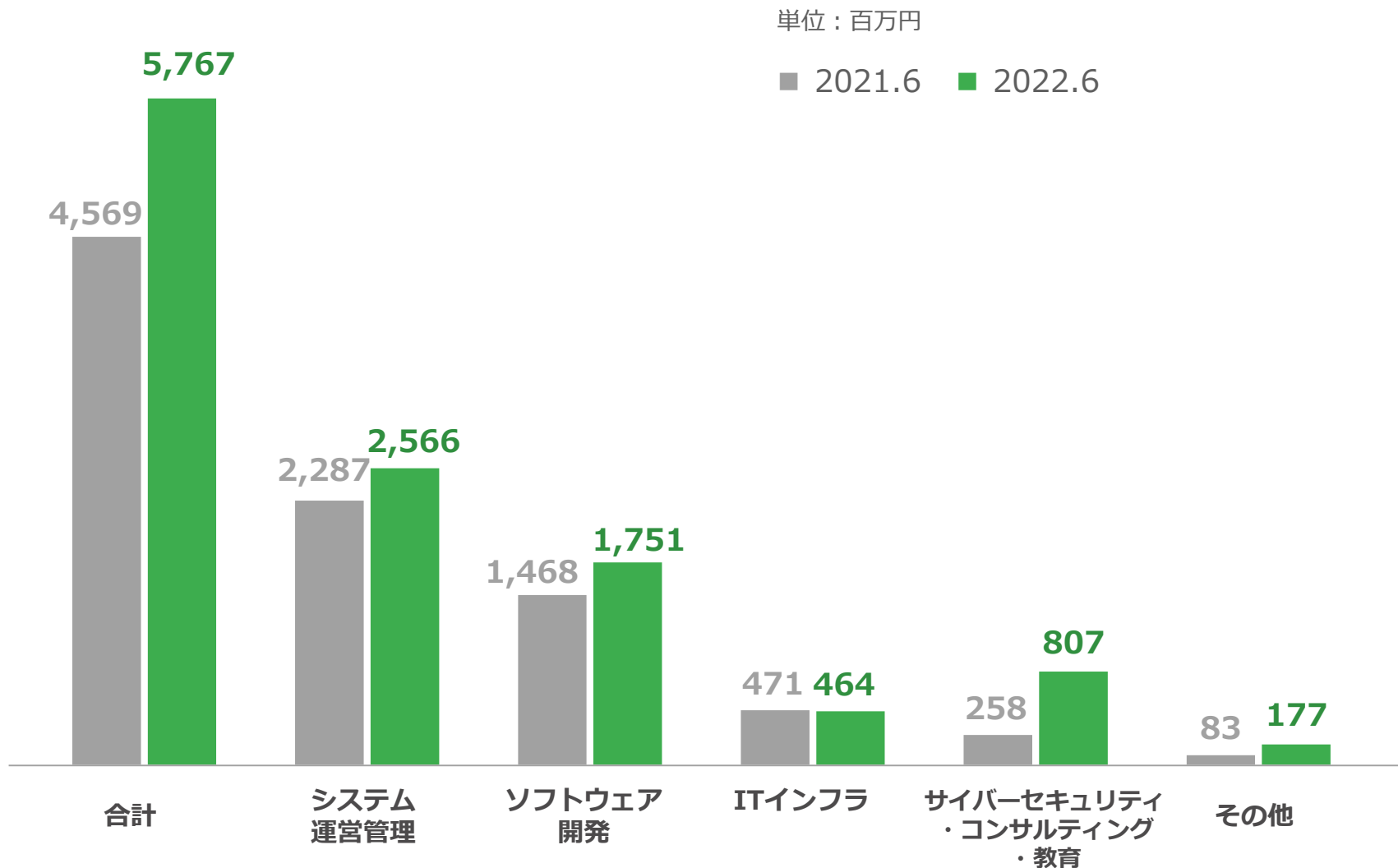
2022.6

資産 15,620	負債 6,075
	純資産 9,544

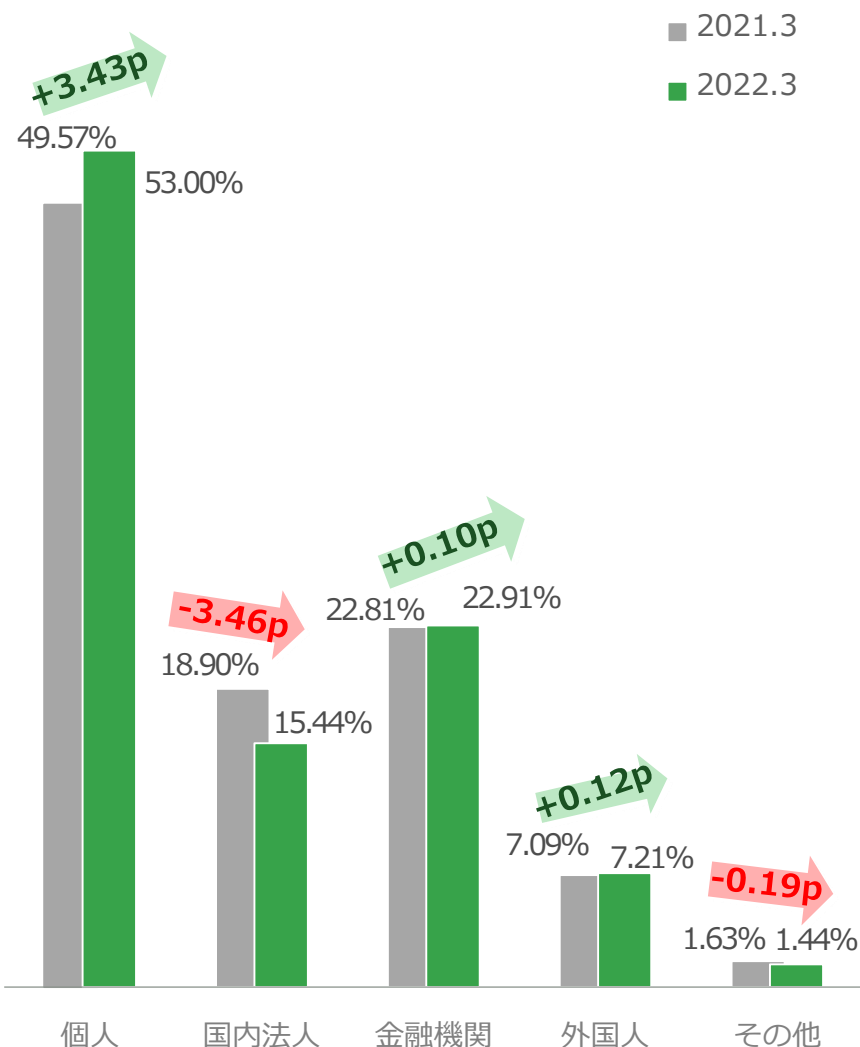
自己資本比率 : **60.8%**

流動比率 : **205.3%**

のれん : **1,637**百万円



株主構成の推移



主要株主

- ✓ 株主総数5,983名 (2021年3月末比710名増)
- ✓ 議決権を有する株主総数5,067名 (2021年3月末比499名増)
- ✓ 持株比率は、自己株式(1,111千株)を発行済株式総数から控除して算出しています。

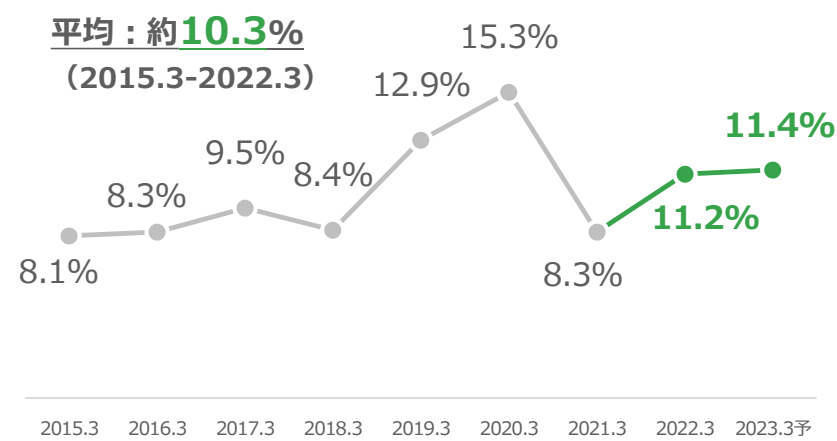
	主要株主	持株比率
1	日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	10.16%
2	株式会社エイ・ケイ	9.23%
3	ID従業員持株会	6.60%
4	PERSHING-DIV. OF DLJ SECS. CORP.	4.60%
5	株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	4.47%
6	みずほ信託銀行株式会社	3.74%
7	TDCソフト株式会社	2.51%
8	株式会社日本カストディ銀行 (信託E口)	2.15%
9	船越 朱美	1.75%
10	丸林 香織	1.58%

資本効率向上の施策

ROE = $\frac{\text{当期純利益}}{\text{自己資本}}$

- M&A戦略やDXビジネスの推進による売上高拡大
- サービス型ビジネスへのシフトによる利益率の向上
- さらなる成長に向けた人財投資
- 配当による株主還元の充実

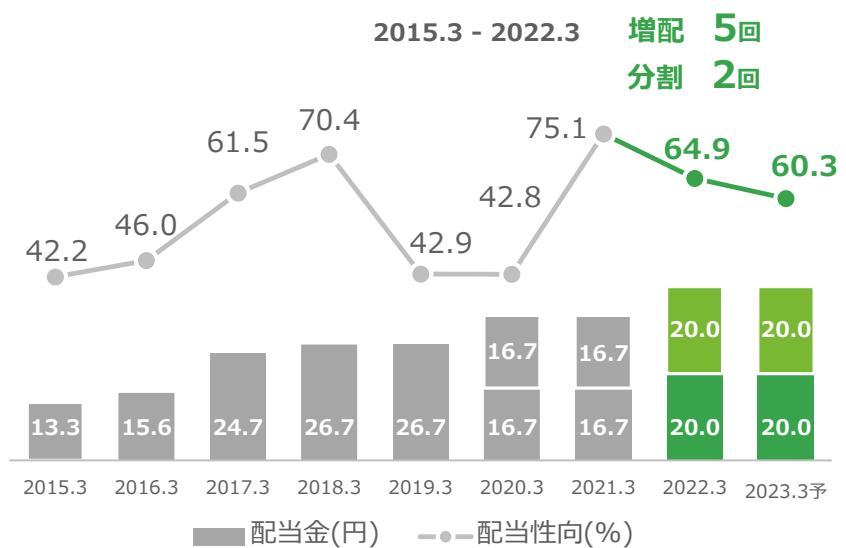
ROEの推移



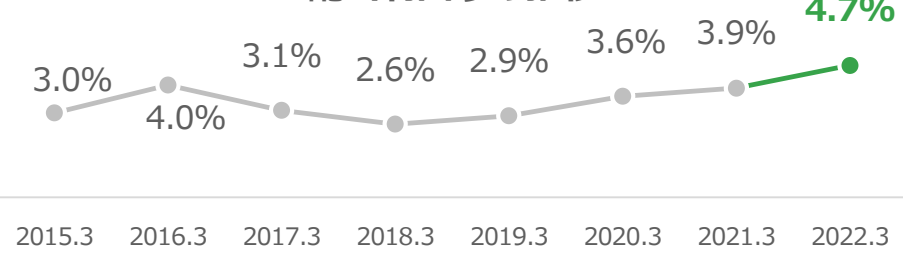
株主還元の充実

2023年3月期
中間配当20円、期末配当20円を予定

1株当たり配当金および配当性向の推移



配当利回りの推移



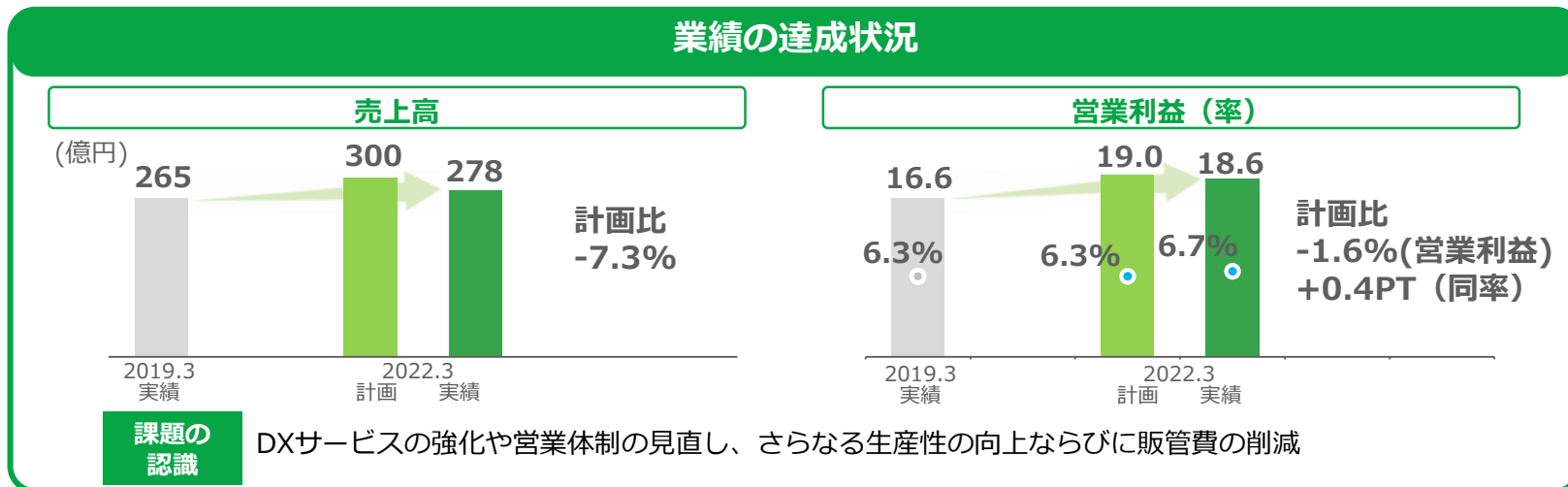
1

2023年3月期第1四半期決算説明

2

新中期経営計画
Next 50 Episode II
「Ride on Time」

計画比で売上未達も営業利益率は達成
各種施策を推進し、将来の成長を見据えた事業基盤を構築



DXによるUP-Gradeされた Business Modelの展開

DX売上高
126億円
(計画比20.7%増)

DX資格取得件数
1,392件取得
(計画比19.5%増)

課題の認識 中上級DX技術者ならびに企画提案人材の育成

未来志向型 企業文化の醸成

一部管理機能の山陰移転

人材マネジメントシステムの導入

課題の認識 管理部門業務の効率化・高度化

ESGの推進

健康経営優良法人
2022
Health and productivity
アワード500

3年連続で認定

NIKKEI SDGs
2021
★★★
星3つの評価

NIKKEI Smart Work
2022
★★★★
星3つ半の評価

**環境ISO14001
認証を取得***

課題の認識 いっそうの活動内容の拡大

※登録番号：JQA-EM7740

5つのステークホルダーへ **Waku-Waku** する未来をお届けする
ITエンジニアリングパートナーを目指して。ともに **Ride on Time!**



Next 50 Episode II 「Ride on Time」

企業価値の向上と、**従業員やBP**への還元で、さらなる成長サイクルの実現へ！

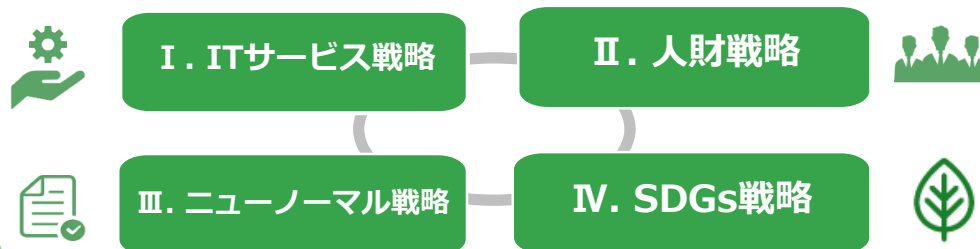
Change or Die!



	2022.3	2025.3	2027.3*
売上高	278億円	320億円	400億円
営業利益	18.6億円 (6.7%)	25.5億円 (8.0%)	32億円 (8.0%)

※M&Aの実施を考慮

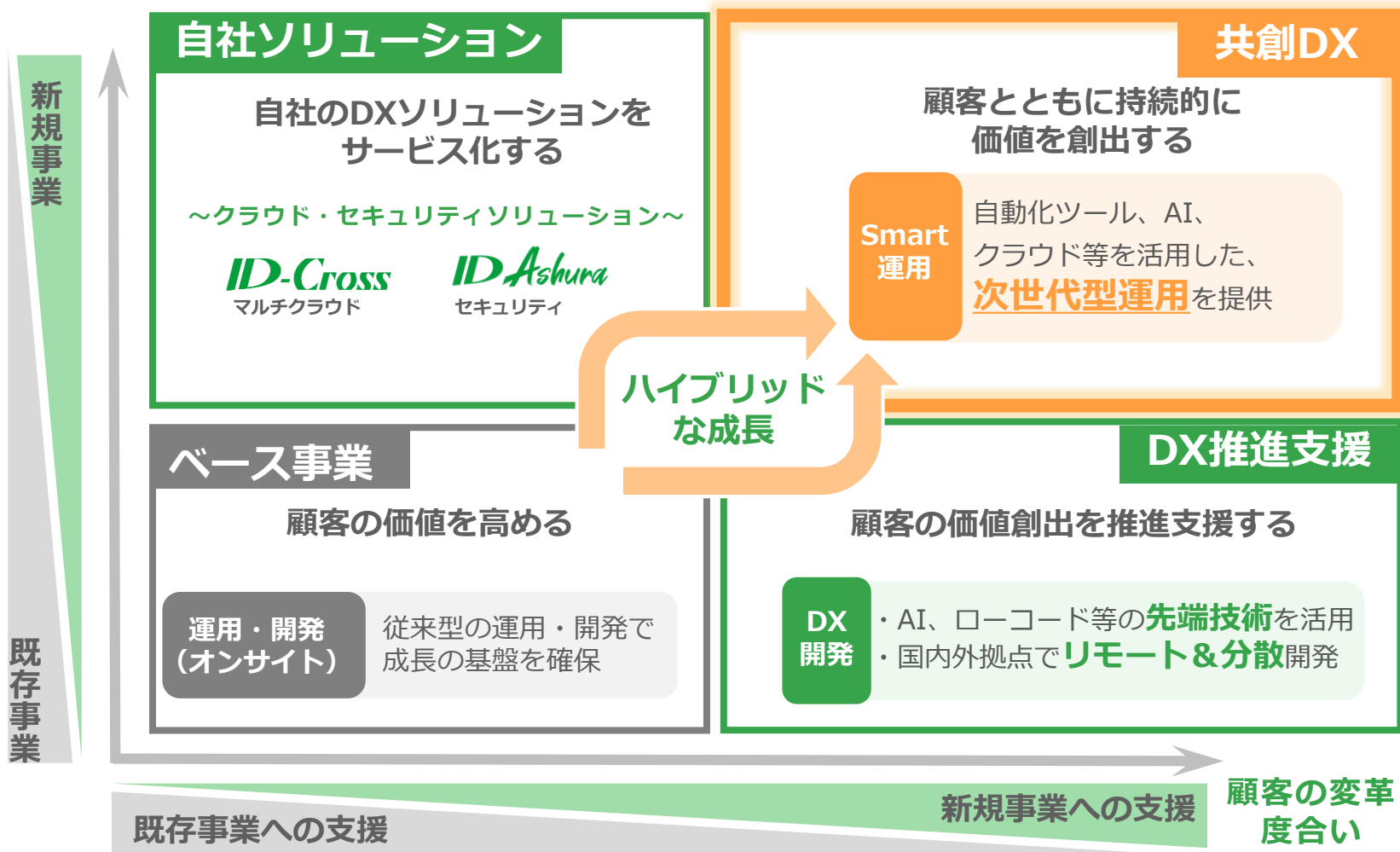
- 1 当社DXポートフォリオに沿ったビジネスモデルの展開
- 2 高付加価値創出に向けたパートナーシップの強化
- 3 管理部門の高度化と事業部門への人財シフト



■ ベース事業で収益を確保し、顧客のDX推進支援&自社ソリューションを拡大

Change or Die!

当社のイノベーション度合い



- 共通タスク** ◆重点顧客タスク ◆戦略パートナータスク ◆BP価値向上 ◆品質管理 ◆グローバルタスク

※出典『情報サービス産業白書2021』p6, 「DXビジネスポートフォリオ」を一部修正

「システム運営管理」とは

お客さまのシステムを24時間365日運用・監視し、社会の重要インフラを支える。
他社にとって参入障壁が高い分野。

1 システム運営管理が4割超 ▶ストックビジネスとして業績を下支え。

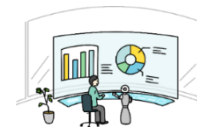
【2022年3月期 連結売上高】 27,805百万円



今後の
方向性

Smart運用

高付加価値化を目指す



セキュリティ

プラットフォーム
開発

システム運営管理事業に占める割合
75%を目指す

2 国内最大級のシステム運用技術者集団 ▶大手金融顧客を始めとし50年超の経験



技術者数 約 **1,000**人※

(+ BP 約1,000人)



運用・IT件数
資格保有件数 約 **700**件※

今後の
方向性

中上級技術者の育成に注力

中上級資格取得強化

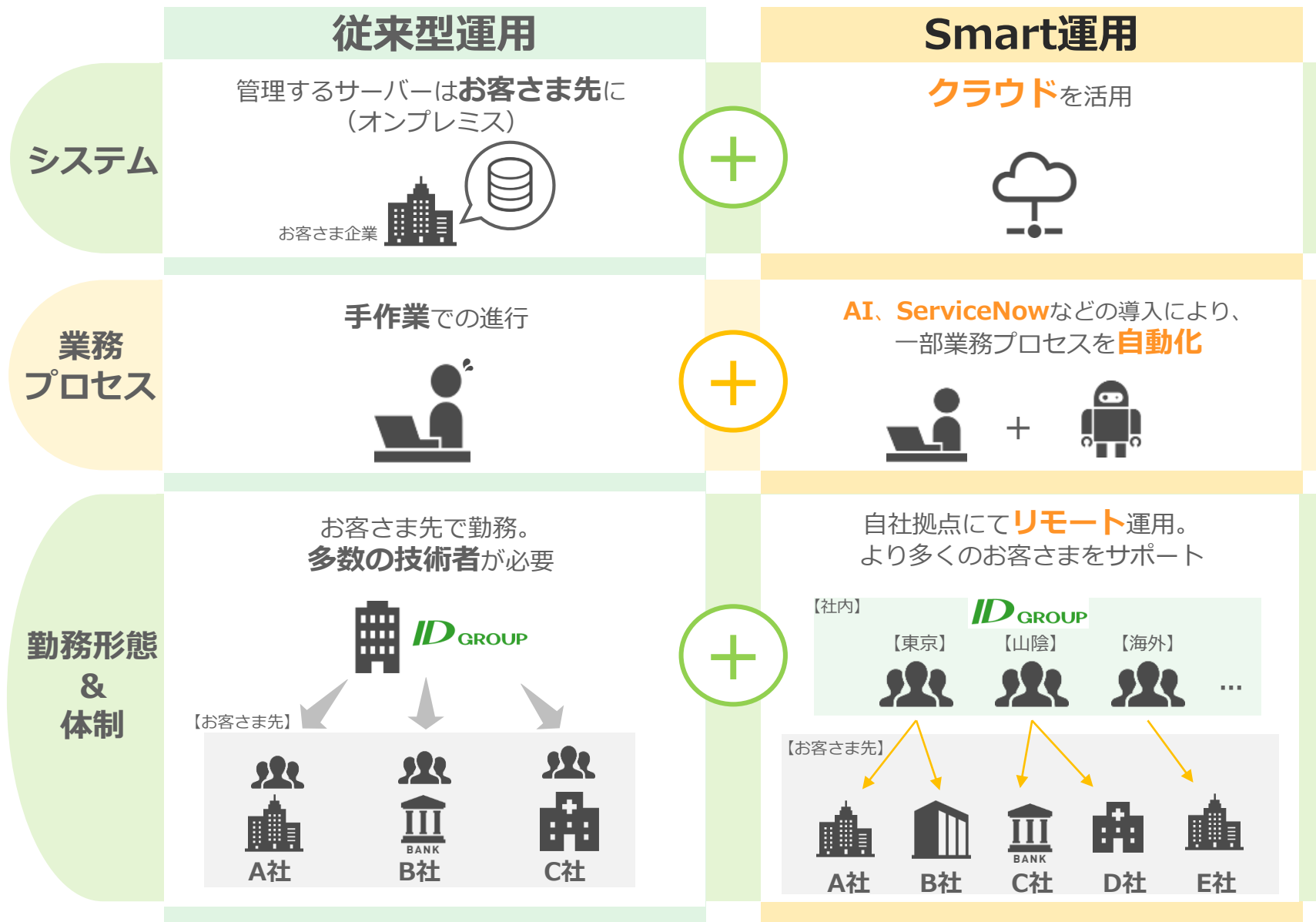
+470件 / 3年

ターゲット資格:

ServiceNow、OpenShift、AWS、Azureなど

※2022年3月末時点

従来型運用に加えクラウド、自動化ツール、リモートを活用した**Smart運用**に注力

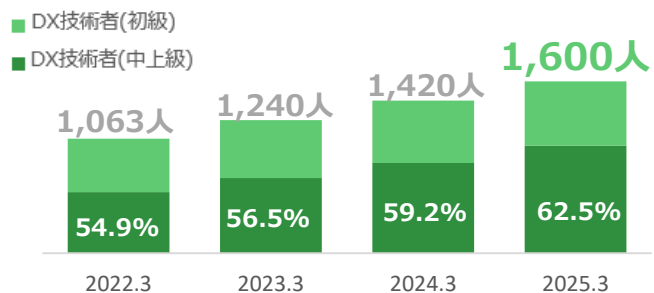


DXサービスの拡大に向けて、中上級技術者や企画提案人財の育成を強化

育成戦略

◆DX技術者

クラウド・AIなどの設計/構築を担う中上級人財



◆重点施策



各層の連続的な次世代育成
(リスキリング)



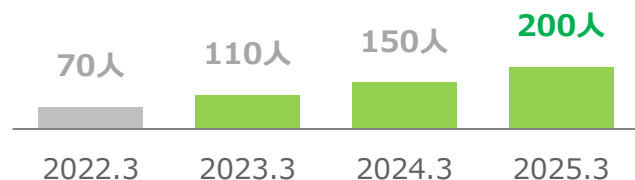
WEB3.0世代の技術者育成
(メタバース、NFT※)

※非代替性トークン (Non Fungible Token)

など

◆企画提案人財

新たな発想でソリューションを提案できる人財



◆育成予算



6億円/3年

参考：2022.3実績 1.8億円

DXサービスの拡大

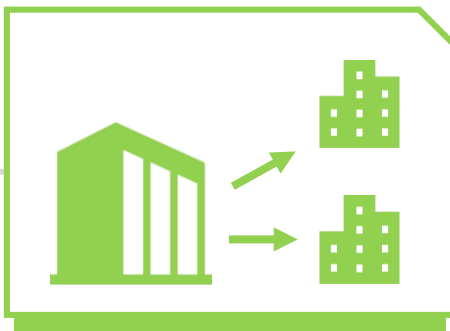
業務効率化により管理部門の人員を事業部門へシフトし、収益寄与分を社員に還元

業務の
効率化・簡素化



- ・情報共有基盤の導入によるデータの一元化
- ・プロセスの削除、業務のデジタル化

管理機能の
分散化



- ・山陰・海外拠点への管理機能の一部移管
- ・ヘッドオフィスとシェアードオフィスの機能の整理

経営管理・
企画機能の強化



- ・基幹システムの刷新によるデータの集約・利活用



2025年3月期
数値目標

販管費率の改善
販管部門体制

17.3%※ → 13.9%
190人 → 140人

※2022.3の実績

事業活動を通じて、社会課題の解決に貢献するとともに、企業価値を向上させる

経営理念 *IDentity*

Social issues

Management Resources

Business activities

Creating value

解決すべき
社会課題

IDグループが持つ
経営資源

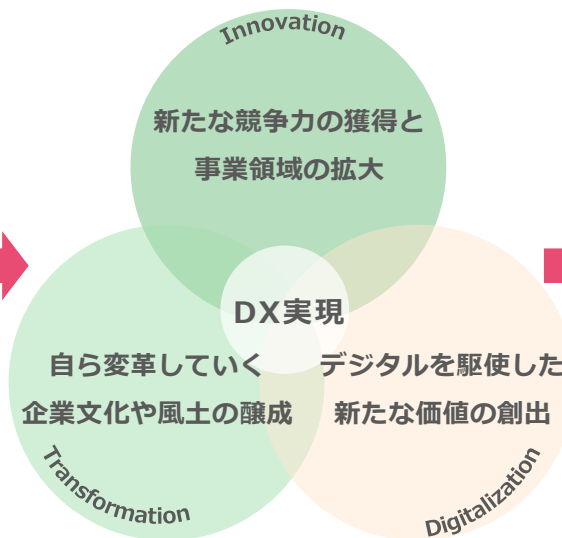
IDグループの事業活動

IDグループが目指す価値の創出

Waku-Waku する未来

- DXの進行
- サイバー攻撃
- 気候変動
- ダイバーシティ
- 個人情報保護

- 知的資本
- 人的資本
- 社会関係資本
- 製造資本
- 自然資本
- 財務資本



- 環境価値の創出
地球にやさしい社会の実現
- 社会価値の創出
安全安心な社会基盤作り
- 経済価値の創出
ステークホルダーとの良好な関係を構築・維持



コーポレートガバナンス

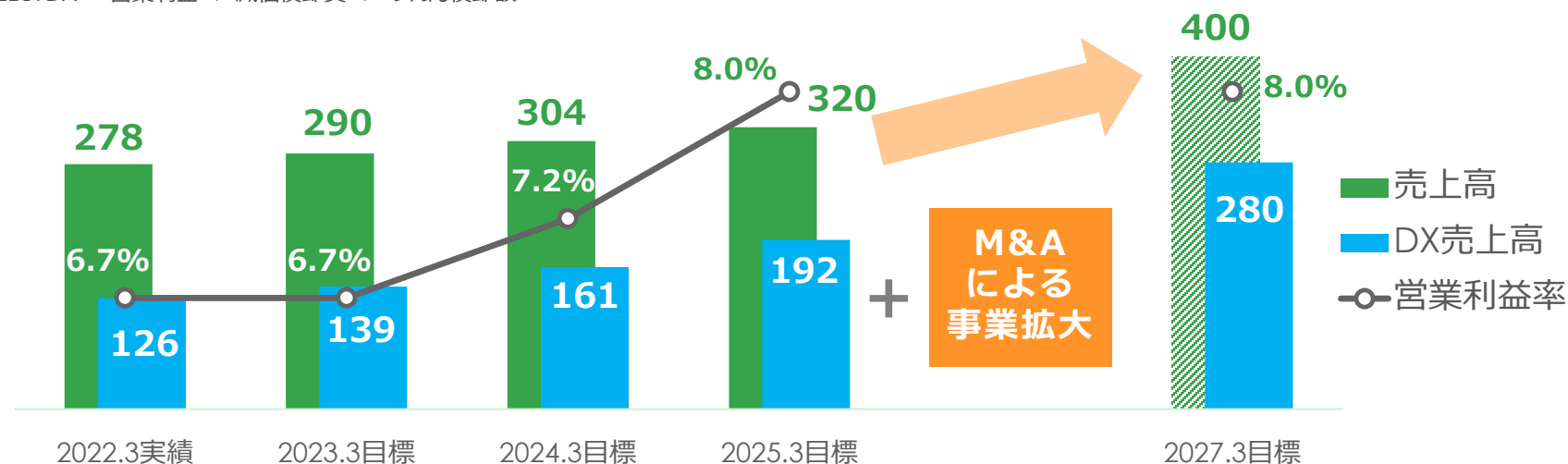
価値創造エコシステム

Change or Die!

(5年後の数値目標)
2027年3月期

	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2027年3月期
売上高	278億円	290億円	304億円	320億円	400億円 <small>※M&Aの実施を考慮</small>
営業利益 (同率)	18.6億円 (6.7%)	19.5億円 (6.7%)	22億円 (7.2%)	25.5億円 (8.0%)	32億円 (8.0%)
DX売上高 (同率)	126億円 (45.6%)	139億円 (48%)	161億円 (53%)	192億円 (60%)	280億円 (70%)
EBITDA (同率)	24.9億円 (9.0%)	25.8億円 (8.9%)	28億円 (9.2%)	31億円 (9.7%)	40億円 (10.0%)

※ EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却額



	主要KPI	2022.3 実績	2023.3 目標	2024.3 目標	2025.3 目標
ITサービス戦略	DX売上高	126億円	139億円	161億円	192億円
	DX売上高比率	45.6%	48%	53%	60%
人財戦略	DX中上級資格取得件数（年間）	264件	300件	300件	300件
	DX中上級技術者数	584人	700人	840人	1,000人
	女性従業員比率	24.1%	26%	28%	30%
	女性管理職比率	16.9%	22%	25%	30%
	外国籍社員比率	7.7%	10%	13%	15%
ニューノーマル戦略	販管費率の改善	17.3%	15.3%	14.6%	13.9%
SDGs戦略	CO2の削減（電力使用由来による） * 2021年3月期比 電力使用量	3.7%減	15%減	18%減	20%減
	紙の使用量の削減 * 2021年3月期比	17%減	17%減	20%減	23%減
	環境ボランティア活動の参加 （年間延べ人数）	173人	200人	200人	200人

2023年3月期通期 連結業績予想（前期比）

(単位：百万円)	2022.3		2023.3		増減比	
	実績	構成比	計画	構成比	増減額	増減率
売上高	27,805	-	29,000	-	+1,194	+4.3%
EBITDA	2,491	9.0%	2,580	8.9%	+88	+3.5%
営業利益	1,869	6.7%	1,950	6.7%	+81	+4.3%
経常利益	1,922	6.9%	2,000	6.9%	+77	+4.0%
親会社株主に帰属 する当期純利益	1,046	3.8%	1,100	3.8%	+54	+5.1%
1株当たり当期純利益 (EPS)(円)	61.61	-	66.31	-	+4.70	-
のれん償却前EPS(円)	87.78	-	93.10	-	+5.32	-
営業CF	1,842	-	1,816	-	-26	-

Change or Die!

免責事項

本プレゼンテーション資料には、株式会社 IDホールディングスの業績予想、将来戦略、事業計画などの将来情報や経済動向、他社との競争状況などの潜在的リスクや不確実な要素が含まれています。

これらの歴史的事実以外の情報に含まれる予測及び計画は、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断しています。

その為、実際の業績、事業展開または財務状況は、今後の経済動向、業界における競争、市場の需要、為替レート、その他の経済・社会・政治情勢などの様々な原因により、記述されている将来予測及び計画とは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。